

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p> <p>ホーム理念、ケア理念を運営推進会議で定期的に地域の方々にお知らせしている。</p>		
2	<p>○理念の共有と日々の取組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p> <p>スタッフルーム、ホールの目につくところに提示しており、いつでも確認できる状態になっている。</p>		
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p> <p>ご家族様には、入居前の説明と、いつでも確認できる状態になっている。地域の方々には運営推進会議を通して定期的にお知らせしている。地域の方々にはグループホームをより理解してもらえるよう積極的に町内会への行事参加・ホームの行事への招待させていただいている。ホームページを作成することでより広くホームについて知っていただけるよう努めている。</p>		
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p> <p>気軽に立ち寄っていただける、ホームづくりを心がけていく。ホームの行事へのご招待やホームページにより広くホームについて知って頂ける様努めている。</p>		
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p> <p>定期的に、町内会、富良野市介護保険課の方をお呼びして地域推進委員会を開催したり、町内会清掃や総会などに積極的に参加している。</p>		
6	<p>○事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p> <p>地域町内会で主宰されるボランティアに職員が参加させていただくことで、地域やそこに暮らす高齢者の方々に貢献している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価、外部評価について全職員が正確な理解と必要性をもっと話し合っている。また、継続できるよう職員一人一人の意識を高めている。		
8 ○運営推進介護を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議で地域の方々にホームの理念・行事や日常の取り組みなどを、お知らせしている。これからも運営推進会議でホームの意義・取り組みを伝えていき、グループホームへの理解してもらえるような努めていく。		
9 ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	富良野市の地域ケア講座や、病院主催の研修会に積極的に参加している。ほかの施設とも情報交換を行い、ケアの向上に勤めている。		
10 ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	現在、学ぶ機会がない。	○	今後、研修などに参加し、学んでいきたい。
11 ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見逃されることのない要注意を払い、防止に努めている。	研修会で勉強し、その内容、資料などを回覧しスタッフが学べるようにしている。さらにホーム内に職員のケアを確認、改善するために虐待防止委員会を設置し、職員全体がケアの在り方を検討し、話し合える場を設けている。		
4. 理念を実践するための体制			
12 ○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約の際、ご家族様に対して、施設長・管理者が内容について一つ一つ説明し、納得・理解していただいたうえで契約している。解約の際も同様。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者様は、管理者、職員へ苦情を言える状態になっているが、外部へ伝えることは難しい。	○	利用者様からの苦情は聞き入れ、速やかに対応している。
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	面会に来られる方には、その都度状況説明をし、なかなか来られない方には、電話連絡している。金銭管理については、毎月本社より料金請求の際に同封している。ご家族の方々など面会があった際、どんな生活をしているか、日常の様子を分かりやすいよう、ホールに写真を展示、希望があれば写真を家族様にお渡ししている。		
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	苦情受付相談窓口を設け、外部機関の方々へも連絡ができるよう、玄関入り口に掲示してある。またご家族の方々が遠慮せず言えるよう、玄関に用紙とポストを設置している。いままで外部からの苦情が一件あり、そのさい速やかに、対応し全職員で話し合い、改善に努めている。		
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	管理者・施設長ともに職員からの意見についてそのたびごとに話し合い、最善の方法を互いに模索している。		
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	利用者様の個々の希望・状況に合わせて、職員の勤務時間、形態を調整している。		
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	利用者様の個々の状況に合わせて、ケアの質の向上のためにも職員の移動は今後検討していく。異動の際には利用者様のダメージが少ないよう、配慮していく。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	研修に参加した職員を中心とした全職員による定期的に勉強会を開き、全職員のレベルアップに繋げていけるよう努めている。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	積極的に他施設との交流を行えるよう調整し取り組んでいきたい。サービスの質の向上ができるよう他施設研修を現在検討している。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	友和会を設置し、食事会などを定期的に行い、話ができる環境づくりをしている。		
22	○向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	職員の実績や勤務状況を把握し、職務に向上心が持てるよう職員一人一人が、常にレベルアップできるような、環境を作っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	自ら希望を伝えられる方の意見は聞き入れ、受けとめている。希望を伝えることが困難な方への思いを受け止めるため、職員全体がケアの在り方を検討し、話し合える場を設け、ケアを見直し、より良くしようと努めている。ご家族の方などと連携し、ご本人様が何を伝えたいのか、何を不安に思っているのかを把握できるよう、支援していく。スタッフもご本人の表情、動き、口調をつかむことで本人の思いを受け止めていく。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	入居前に、ご本人様、ご家族様に施設長・管理者が面談、聞き取りを実施している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	主に管理者が窓口となり、相談を受け、ほかのサービス事業者との連携を図り、助言を行っている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	ご家族様と相談をしながら、協力して納得いただけるよう、日々努めている。帰宅願望がある入居者には、ご家族様にご本人への面会や電話をして頂いたり、少しでもご本人が安心・納得できるように工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	本人の気持ちを尊重し、互いに支えあうケアを目指しているが、業務に追われて難しい時もある。	○	業務の工夫、調整をし、互いに気持ちが通じ合い共に過ごせる時間と、支えあう関係を築いていく。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族様との交流は面会時、クリスマスや誕生日などの行事への招待を通じて行っている。なかなか来られない方には、定期的に電話、手紙などで連絡し本人の日々の生活状況・様子などをお知らせしていく。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	介護計画書のアセスメントの中でこれまでのご本人様との関係などを聞き、理解し、ご本人様がホームでより良い関係を築いていただけるよう支援している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	知人の方の面会や、なじみの理容師の方がホームで散髪をしていただいている。昔馴染みの飲食店で食事を楽しまれることもあるが少数。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	認知症の軽度な方は、利用者同士が関わりあい、支えあっているが、重度の方とのかかわりが互いに困難で、いさかいが起こることもある。職員が間に入り、互いの気持ちを受け止めることで、できるだけ良い関係づくりができるよう努めている。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	退去となった入居者様のご家族と現在は連絡を取り合ったりはしていない。退去の際は何かあればいつでも相談に乗らせていただくことを伝えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	全職員が参加してアセスメント、モニタリングを定期的に行い、本人・ご家族の希望、意向を把握するよう努めている。スタッフ主導ではなく本人本位のケアの実現につとめている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前に生活歴など、ご家族様・ご本人様などより聞き取りを行い、アセスメントに反映していく。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	入居者様の一日の過ごし方、心身状態、は把握し、職員主導ではなく本人本位のケアの実現のため、職員全体がケアの在り方を検討・話し合・見直しをし、より良くしようと努める。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	ご家族の方が意見を出しやすいような雰囲気作りを実施している。本人本位のケアの実現のため、職員全体が介護計画の目的、意義をより知るために話し合いの場を多くつくり、ケアへの意見を活発に出してくるよう促す。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで いきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	定期的に評価、見直し、変化があった場合には、その都度全職員で見直しをしていく。		
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	各利用者様の日々の状況を全職員が理解できるように申し送りノートの作成、ひと月ごとに血圧表・体重表により日々の変化がわかるような工夫をしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	ご本人様の要望は、速やかに対応できるよう努めているが、ご家族様の協力がないと困難なこともある。その場合にも柔軟に対応できるようにしていく。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	民生委員、消防の方とは、協力体制ができています。		
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	現在は行っていない。	○	本人が希望すれば、ほかの事業者と連携し、利用できるよう支援していく。
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	現在は行っていない。	○	今後、必要に応じて検討していく。

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
43	○かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	医療連携体制をとっている。看護職員と相談、連携しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。		
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	富良野市には認知症専門医がおらず、現在精神科の先生に診ていただいている状態。	○	精神科に通院することでのご家族様からの抵抗もあり現在、ほとんどの方が受診をしていない状態。
45	○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	看護職員と相談、連携しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	施設長、管理者、ご家族様、病院関係者の方と定期的に情報交換ができるような場を設けている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	要望があった際には施設長、管理者、ご家族様、かかりつけ医等と話し合いができる場を設けている。今後も、終末期、重度化は考えられるため方針を決定し共有できる場を設けていく。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	要望があった際には施設長、管理者、ご家族様、かかりつけ医等と話し合いができる場を設けている。事業所としての「できること・できないこと」の明確化はしていない。今後も、終末期、重度化は考えられるため方針を決定し共有できる場を設けていく。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
49 ○住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	ケア関係者と事前に話し合いを実施し、情報交換を行い、移り住む際に入居者様への負担をできるだけ少なくするよう努めている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50 ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	ホーム内に職員のケアすべてを確認、改善するため、虐待防止委員会を設置し、職員全体がケアの在り方を検討し、話し合える場を設けている。		
51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	ホーム内に職員のケアを確認、改善するため、虐待防止委員会を設置し、職員全体がケアの在り方を検討し、話し合える場を設けている。		
52 ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	業務の工夫、調整をし、本人の希望を尊重したケアに努める。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	なじみの理容師の方がホームに訪問され散髪をしていただいている。昔馴染みの床屋に行かれる方もいらっしゃる。		
54 ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	職員は個々の入居者の好みに合わせたできる限りの対応をしている。目が不自由な方には料理の名前やどんなものかいいながら、食事をしてもらっている。(目が不自由な分、何を食べているかの情報が必要なのは)		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで いきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	病気などでの制限がない方は、日常的に行えるよう支援している。病気などで制限がある方に対する配慮もできている。甘い物が好きな方にはカロリーを抑えた甘味料を使用するなどの工夫に努めている。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄感覚を把握し、トイレ誘導を行ったり、綿パンツを使用したりと工夫している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	毎日入浴したい、好きな時間に入りたい、など個別の希望がかなえられるような体制を作っている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	昔からの生活習慣を把握し、状況に応じてからだを休められるようにしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	夏場は外作業や散歩といった気晴らしになることもあるが、冬場はホームにこもりがちで、気晴らしがなかなかできない。ボランティアの方を呼ぶなどして外のにぎやかさを感じていただいているが継続的とは言い難い。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	買い物に行く機会を定期的に持つことで利用者の方がお金を使えるように支援していく。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	畑作業や散歩、ドライブ・買い物といった気晴らしになる機会を作り、入居者さまが気分転換できるよう努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	入居者さまの希望で出かけたい所へは即日とはいえないが日をきめて、個人・数名で行くことはある。蕎麦屋への昼食、買い物、喫茶店でお茶。ときおり家族の方とともに外出される機会もある。		
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	手紙・電話は自由にできるようになっている。自分でできない方は電話を替わりにかけたり、代筆したりと、入居者のやりたいことを支えていく。		
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	面会時間であればいつでも面会できるようになっている。食事の時間が近ければホームでの入居者さまのお食事をお誘いすることもある。		
(4)安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束をしないよう、ケアをしているが、今後も全職員が理解できるよう、勉強会などを行い、ケアを行っていく。		
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	自室には鍵は付いておらず、玄関も自由に出入りできるようになっている。		
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	ホールには職員がいるようにし、自室にて休まれている時にも見回りを行っているが、短時間でも入居者さまを見過ごすことがある。スタッフ間で、利用者の所在や様子を互いに把握し、安全に配慮に努める。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	各自室には必要物品が置いてあり、使用できる状態にしてある。包丁など危険物以外のものは、持ち込める状態になっているが、危険防止に努めている。タバコを自己管理している方や、職員で預らせている方など個々の入居者さま方の状況に応じている。		

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	職員同士常に声を掛け合い、事故が起きないように、取り組んでいる。最近グループホームでの火災が増えてきており、職員も十分注意をしている。		
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	定期的に勉強会を開き、全職員がスムーズに対応できるように指導している。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	運営推進会議・ホーム主催の行事に招待し、参加していただいている。		
72	○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	その都度、家族の方へ連絡を入れ説明をしている。また、ご家族様からの協力を得ている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	毎日バイタル確認を行い、ひと月区切りの健康表を作成し、個々の健康状態の把握に努めている。体調の変化があった場合は医療機関を受診するようにしている。自己表現が困難な入居者もおられるため、日々様子観察を行い、体調に変化に気づけるようにしている		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	全職員が服薬情報を把握できるように、服薬ファイルを作成している。また服薬の変更があった時は申し送りを徹底している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	便秘しないように乳製品を取っていただいたり、予防に努めているが、なかなか出ないことがあり、下剤を使用することがある。今後も水分や食事の工夫を行い、自然排便ができるように配慮して調整していく。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいる項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	口腔ケアの重要性が全職員が理解して実践している。口腔ケアの講習会も開催している。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食前にお茶を飲みたい方、多めのお味噌汁に飲みたい方など個々の食生活に合わせて食事の順番も考えてお食事を出している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症マニュアルがある。また手の消毒やノロウイルス防止として日に2回のトイレの清掃・消毒を行っている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	毎日、調理用具の消毒、と職員の清潔保持の徹底、食材の安全管理に努めている。冷凍のものは作る直前に解凍する。食事の作り置きはしないなどを実施している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関の前に花を植えたり、ベンチを置く、清掃を行ったりしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ホームに季節の花や飾りなどで装飾し、生活感を出すよう努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
82 ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	三人掛けのソファを置いたり、一人で過ごせるような一人用のいすを用意し、コーヒーを飲んだり、入居者様同士で歌を歌ったりして思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。		
83 ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	自室のものは本人がなじんだものを持ち込んでいただくことで本人に安心感を持っていただいている。		
84 ○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	24時間の換気システムを導入しており、十分に換気されている。天気のいい日は窓を開けるなどの換気を行い、空気がよどまないよう配慮している。空気が乾燥している場合などを空気清浄機などを用いて快適な環境づくりに努めている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85 ○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	ホームに手すりを設置したり、自分で歩行できるように工夫している。トイレ、浴室のも手すりを設置し、本人の身体機能に応じれるようにしている。		
86 ○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	ご本人様が困難な時は、できる、理解できるよう支援している。盲目の方に料理の名前やどんなものかもいいながら、食事を楽しんでもらう。箸などを本人が取りやすい場所に配置する。		
87 ○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	外回りに畑をつくったり、洗濯物が干せるように生かしている。ベンチを設置して一休み、日向ぼっこができるようにしている。		

V. サービスの成果に関する項目			
項目	取り組みの成果		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんど掴んでいない	本人からの希望を伝えることが困難な方への思いに十分こたえていないため
89	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない	接する時間はまだ短いときもあるが毎日できるよう心がけている。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない	職員の時間・ペースで接する時がある。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない	入居者様ではなく職員のペースで接する時がある。
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない	ドライブ、散歩とできる限り行っている。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない	医師・看護師等との緊密な連携を行うことで入居者の生活に安心感を持って頂いている。
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない	全員の意見を支援することには努めており、今後も個々の希望の実現を支えていく。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	①ほぼ全ての家族 ②家族の2/3くらい ③家族の1/3くらい ④ほとんどできていない	話す機会が入居者様の面会が大部分なので、十分とはいえない

V. サービスの成果に関する項目			
項目	取り組みの成果		
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない	訪問リハビリ、出張理容、パンの訪問販売などがある。
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない	運営推進会議を通じて見学、行事参加をしていただくこともある。
98	職員は、生き生きと働いている	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない	さらにスタッフ間の意見交換・話し合いをおこなう必要はある。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	入居者さま、ご本人様のご意見・ご希望に気持ちを傾けなければならない。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない	ご家族様がホームに気兼ねなく意見を言える場が必要。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載) 利用者が望む生活を送れるような手助けをさせて頂くために日々最大限の努力をしています。